

グローバル・アピール 2015

サイドイベント

THINK
NOW
ハンセン病

文芸でみるハンセン病

川端康成に支えられた作家

北條民雄について語る

日時 一月三十日(金) 十八時から

場所 日本財団ビル一階

講演者 高山文彦(作家)、原田大二郎(俳優)、

岩浅嘉仁(阿南市長)、浅川雄康(阿南市光明寺住職)、

笹川陽平(日本財団会長)



北條民雄肖像画
(日本近代文学館蔵)

主催 日本財団



共催 徳島県阿南市



登壇者



高山 文彦
(作家)



原田 大二郎
(俳優)



岩浅 嘉仁
(徳島県阿南市長)



浅川 雄康
(徳島県阿南市光明寺住職)



笹川 陽平
(日本財団会長)

プログラム

- 主催者挨拶 (10分) 笹川陽平 (日本財団会長)
- 北條民雄「いのちの初夜」朗読 (15分) 原田大二郎 (俳優)
- 「火花」制作 / 執筆秘話 (20分) 高山文彦 (作家)
- 阿南市の取り組み (10分) 岩浅嘉仁 (阿南市長)
- パネルディスカッション・質疑応答 (35分)
パネリスト：笹川陽平、原田大二郎、高山文彦、岩浅嘉仁、浅川雄康(阿南市光明寺住職)
ファシリテーター：南里隆宏(日本財団)

この講演会について

徳島県阿南市で育ったハンセン病の作家・北條民雄。19歳の時、ハンセン病と診断され、全生病院(現国立ハンセン病療養所多磨全生園)に入院。その入院中に執筆した「いのちの初夜」が、川端康成の手を借りて世に送り出され、1936年に文学界賞を受賞しました。その後退院することなく23歳の若さで命を落とした天才作家・北條民雄の生涯について、彼のドキュメンタリー作品である高山文彦氏の「火花」を通じて触れていきます。また、冒頭で俳優の原田大二郎氏が「いのちの初夜」の朗読を行います。



ハンセン病とは

人類の歴史上もっとも古くから知られる病気のひとつですが、1980年代に効果的な治療法が確立されるまでは、世界中で恐れられ、罹患した人々は家族から離れた施設などへ隔離されるなど、あらゆる差別を受けてきました。ハンセン病は現在では完治する病気であり、病気から回復した人々には後遺症や、今も残る差別や偏見と闘いながらも私たちにいのちの大切さを伝えてくれています。



お申込みはこちらから

<http://goo.gl/forms/mQJoo9CiHW>



URLを入力するか、左のQRコードをリーダーで読み取ってください。

お問い合わせ先：

日本財団 (南里、齊藤) TEL: 03-6229-5181

北條民雄「いのちの初夜」(勉誠出版) 限定500冊増刷

講演会会場と紀伊國屋書店新宿本店でお求めいただけます。

ブックフェア

「高山文彦が選ぶ「ハンセン病」を考えるための本」

1月20日(火)～2月5日(木)

紀伊國屋書店新宿本店3F (TEL: 03-3354-5703)

営業時間：10:00～21:00

